

平成18年度3年生皮膚科伊藤担当分試験問題

- I. 動脈性皮膚潰瘍について()に適切な言葉を入れなさい。
多くは()に生じるが、これが閉塞性動脈硬化によって生じる場合と、末梢動脈血栓塞栓によって生じる場合の一番最初に行うべき鑑別方法は、()である。
- II. 褥瘡について()内に適切な言葉を入れなさい。
褥瘡で大切なことは()である。最も生じやすい部位は、()で、その他には()
や()にも生じることがある。
- III. 植皮について()に適切な言葉を入れなさい。
1つは()で、皮膚を採取した部分は単純縫合する。これは()という短所がある。
もう1つの方法は()で、採皮器やカミソリを用いて採皮するが、この長所は生着し易いことである
が、短所は()しやすいことである。
- IV. 各文章を読み()内にその疾患名か、設問の答えを書きなさい。またその疾患を別紙カラー写真から臨床写真(A
~ソ)と組織標本写真(1~13)を選んで[]に記入しなさい。(臨床写真と組織写真は同一の患者さんのものではありません)
...まず写真プリントに診断名を書いておくと回答が早い。
1. 誰にでもあるこの母斑は、時として()との鑑別診断が必要となる。
最近ではダーモスコープによる診断が有用であり、その写真は[]である。
この母斑は()で、その臨床写真は[]で、組織は[]である。
2. この母斑は、かつて成長期を過ぎる頃に、二次性腫瘍として()が高率に発生すると言われて
いたが、最近では、必ずしも悪性腫瘍が多いのではないとされている。
この母斑は()で、その臨床写真は[]で、組織は[]である。
3. 皮膚良性腫瘍のうちでは頻度が高く、一般的には()と間違えて説明されることの多い腫瘍である。
切開して内容除去しても多くは再発し拡大するので全摘出する必要がある。
この腫瘍は()で、その臨床写真は[]で、組織は[]である。
4. この腫瘍は、良性腫瘍に分類されている。顔面に好発することが多く、2~3ヶ月で自然に消褪することもあるが、時に
非常に拡大するものがあり、その場合は手術適応である。
この腫瘍は()で、その臨床写真は[]で、組織は[]である。
5. 湿疹様紅斑や白斑として始まり、後に湿潤、びらん性局面を呈する。進行すると局面内に小腫瘤がみられ、所属リンパ
節転移が生じる。初期では()と誤診されることがある。
この腫瘍は()で、その臨床写真は[]で、組織は[]である。
6. 原因不明だが、紫外線、慢性刺激、慢性炎症、ウイルス、放射線などが関与し、腫瘤、潰瘍を生じる。進行すると悪臭
を伴う。()への転移もしばしば見られ、進行すると肝、肺、骨などへの遠隔転移が生じる。
この腫瘍は()で、その臨床写真は[]で、組織は[]である。
7. 短期間にこの皮膚腫瘍の多発と皮膚そう痒症を伴うと()と呼ばれ、内臓悪性腫瘍の
合併率が高い。
この腫瘍は()で、その臨床写真は[]で、組織は[]である。
8. 転移しやすく、悪性度の高い腫瘍で、皮膚、粘膜、眼のほか稀に脳軟膜に生じる。この腫瘍の診断のための検査では、
()は、禁忌とすべきである。
最近では、ダーモスコープでの診断が有用とされており、その写真は[]である。
この腫瘍は()で、その臨床写真は[]で、組織は[]である。
9. 幼少児に生じた巨大なこの腫瘍では、稀に腫瘍内出血により血小板が消費されDICを起こすことがあり、この病態を、
()と呼んでいる。
この腫瘍は()で、その臨床写真は[]で、組織は[]である。
10. 皮膚癌手術の中では最も多い。約85%は顔面に生じる。一種の過誤腫で、転移は極めて稀である。局所侵襲性は強く、骨まで浸潤する例もある。
この腫瘍は()で、その臨床写真は[]で、組織は[]である。